

Title	Gastrin induces CXC-chemokine expression in gastric epithelial cells through the activation of NF- κ B
Author(s)	平岡, 伸太郎
Citation	大阪大学, 2001, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/43188
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について〈/a〉をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	平岡伸太郎
博士の専攻分野の名称	博士(医学)
学位記番号	第 16552 号
学位授与年月日	平成13年10月29日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文名	Gastrin induces CXC-chemokine expression in gastric epithelial cells through the activation of NF- κ B (ガストリンはNF- κ B活性化を介して胃上皮細胞におけるCXC-ケモカインの発現を誘導する)
論文審査委員	(主査) 教授 松澤 佑次 (副査) 教授 門田 守人 教授 金倉 謙

論文内容の要旨

【目的】

IL-8に代表されるCXC-ケモカインは、*Helicobacter pylori* (*H. pylori*) 感染胃粘膜において、胃炎の病態形成に重要な役割を果たすと考えられている。実際、*in vitro*の実験結果から、*H. pylori*にIL-8誘導作用のあることが明らかとされている。われわれは体部胃粘膜に著明な炎症細胞浸潤を伴う巨大難癒性胃炎患者において、通常の*H. pylori*胃炎患者と比較して、有意に高い血清ガストリン値の認められることを明らかにしてきた。そこで、本研究ではガストリンの胃炎における役割を明らかにする目的で、ガストリンがCXC-ケモカイン発現に及ぼす効果を*in vitro*の系を用いて検討した。

【方法】

ラット胃粘膜由来細胞株 RGM1 およびヒト胃癌由来細胞株 MKN28 にヒトガストリン受容体 cDNA を導入し、ガストリン受容体を恒常的に発現する細胞株 RGar9 ならびに MKGR26 を得た。ガストリン刺激による IL-8 および CINC-1 mRNA の発現は Northern 法にて、IL-8 タンパク発現は ELISA 法にて検討した。IL-8 promoter の転写活性と転写因子 NF- κ B、AP-1 の活性化はそれぞれ Luciferase assay ならびに Gel shift assay にて検討した。

【成績】

1. RGar9 と MKGR26 をガストリン刺激することにより、CINC-1 または IL-8 mRNA が誘導され、それぞれのピークは1時間ならびに3時間後であった。またこれらの反応はガストリン受容体拮抗剤 L-740,093 により抑制された。
2. ガストリンにより IL-1 β および TNF- α による CINC-1 および IL-8 mRNA 発現は増強した。
3. ガストリン刺激により MKGR26 から medium 中への IL-8 放出は増加した。また、この作用は IL-1 β 、TNF- α や *H. pylori* と協調的であった。
4. ガストリンは IL-8 promoter の転写活性を促進した。さらに IL-8 promoter の AP-1 または NF- κ B 結合部位に変異を導入したベクターを用いて検討した結果、ガストリンによる IL-8 転写活性の増強には NF- κ B が必須であり、AP-1 は部分的に必要であることが明らかとなった。
5. ガストリンは NF- κ B を活性化し、NF- κ B 阻害剤 PDTC はガストリンによる NF- κ B 活性化のみならず、IL-8 産生も抑制した。

6. ガストリンによる IL-8 mRNA の発現は、EGF 受容体特異的チロシンキナーゼ阻害剤 AG1478、PKC 阻害剤 staurosporine、または MEK 阻害剤 PD98059により部分的に抑制されることから、これら protein kinase の関与が示唆された。

【総括】

ガストリンは NF- κ B 活性化を介して胃粘膜由来 CXC ケモカインの産生を促進することが明らかになった。ガストリンはケモカイン産生を促進することにより胃炎の憎悪因子として作用することが示された。

論文審査の結果の要旨

本研究はヒト胃癌由来細胞株ならびにラット正常胃粘膜由来細胞株にガストリン受容体を恒常的に発現させ、ガストリンによる IL-8 等の CXC ケモカイン誘導を検討したものである。ノザンプロット、ELISA によりガストリンは濃度依存性に CXC ケモカインの mRNA およびタンパク発現を誘導することが明らかとなった。また、この CXC ケモカイン誘導には EGF 受容体、MAPK、PKC 等、複数の protein kinase が関与していた。さらに、ルシフェラーゼアッセイ、ゲルシフトアッセイによりガストリンによる CXC ケモカインの誘導には NF- κ B の活性化が必須であり、AP-1 の活性化が部分的に必要であることが明らかとなった。本論文は *H. pylori* 感染にしばしば認められる高ガストリン血症がケモカインを誘導することを分子レベルで初めて明らかにしたものであり、学位に値すると考える。